

天上の楽園「入笠山」

西 正子

●2017年6月16日(金) 晴れ

●メンバー 横堀 西A 西M

●コースタイム 約3時間30分

ゴンドラ山頂駅→入笠湿原→入笠山→大阿原湿原→ゴンドラ山頂駅

スズランで有名な入笠山。雪の時期もよかったが、花の美しさも格別と聞いて、急きょ計画を立てた。横堀さんのほうも、ちょうど時間が取れ、にぎやかなハイキングとなった。

朝から太陽が照り付け、熱中症警報が出たこの日だったが……。富士見パノラマスキー場のゴンドラは、あっという間に私たちを、標高1780mの冷涼な世界へと運んでいった。さわやかな風が気持ちよい。

学生時代、ワングル部入部後の最初の山行が入笠山だった。新宿発、朝いちばんの鈍行列車に乗り込み、青柳駅からはえんえんと歩き、山頂にテントを張って一夜を過ごしたものだ。

その頃と比べると隔世の感がある。

ゴンドラ駅から20分くらいで「入笠湿原」に到着。カラマツ林を背景に緑のじゅうたんが広がる開放的な場所だった。足元にはスズランの花がいくつも見られ、思わず笑みがこぼれる。すぐ先には咲き始めのレンゲツツジの群が、こちらは朱紅色がりっぱで、堂々としている。空は大きく澄みわたり、思わず長居したくなった。

湿原を突っ切り、何軒かの山小屋を過ぎ、今度は「入笠山(1955m)」を目指す。

樹林帯、石のゴロゴロ道だが、長くはない。ひと登りの山頂は、360度の大パノラマだった。

いちばん立派なのが、鋸、甲斐駒ヶ岳の雄々しい姿(入笠山～鋸～甲斐駒ヶ岳へと尾根つづきです。白井さん、ヤブを漕ぎ漕ぎ、挑戦してください)だが、八ヶ岳や中央アルプスの連山も見事だった。さら

に目を凝らすと、大キレットを挟んで穂高と槍の稜線も雲間に確認できた。運が良い。神戸から来たという80代の夫婦づれは大感激し、何枚も写真を撮っていた。

最後の目的地「大阿原湿原」は、30分ほどで着いた。案内板には「12ヘクタール」とあり、さきほどの入笠湿原の6倍以上もある。湿原ではあるが、乾燥がすすみ、「尾瀬ヶ原」よりも「戦場ヶ原」に近い。湿原を周回する木道を辿ってみると、前半はズミ(コナシ)の白い花が満開で、明るい感じがするのに対し、後半は針葉樹の深い森に道がつけられ、苔の匂いが香しい。なかなか変化に富んだ道だった

帰りは入笠山の裾を巻く林道を使い、ふたたびゴンドラ山頂駅へと戻った。駅のまわりは山野草園になっていて、昼を過ぎると、スズランを目的に、たくさんの観光客が歩いていた。

ゴンドラで下山すると、もあ〜っと湿気たっぴりの熱風があたり一面覆いつくしていた。

天上の楽園から暑苦しい現世へと逆戻りだ〜。

入笠山は、四季折おり、変幻自在に姿を変えていく。8月のサワギキョウの紫は、山に凜とした品格をもたらし、紅葉に燃える10月を想像すると。また心を動かされる。さあ、次はどの季節にいきましょう？

